

昆虫を利用して食品残さから飼料を生産

～技術の実用化をすすめています～

企画部 研究支援グループ

■背景と目的

世界的な食糧・飼料の需要増加に対応するため、新たな動物性タンパク源として昆虫が注目されています。

食品廃棄物などで飼育可能な昆虫‘アメリカミズアブ’の養殖・繁殖技術を確認し、水産・畜産用飼料としての品質を向上させて、商業的な生産販売を実現させたいと考えています。



アメリカミズアブ



アメリカミズアブによる資源循環システム

■事業の内容

- 省力的な繁殖装置を開発して継続的に運用し、年間を通じた人工繁殖を実現、さらに高効率化を進めています。
- 食品加工の残さなどで幼虫を飼育し、育った幼虫を回収する装置・方式を開発しています。
- 家畜や養殖魚に給餌して、飼料としての価値や安全性などを明らかにする試験を実施しています。

■今後の方向性

- 繁殖技術開発により、アメリカミズアブの生産コストを従来飼料と同等の水準にすることを目指します。
- 大量生産を可能にする自動化・機械化技術を企業等と共同して開発して参ります。
- 当研究所を中心に、大学・企業等で構成する”昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム“を設立、事業化に向けて情報交換を行っています。



Webリンク



飼育管理の自動化・機械化への取り組み

繁殖・飼育から飼料利用までの技術を一貫して開発



地方独立行政法人 大阪府立 環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture